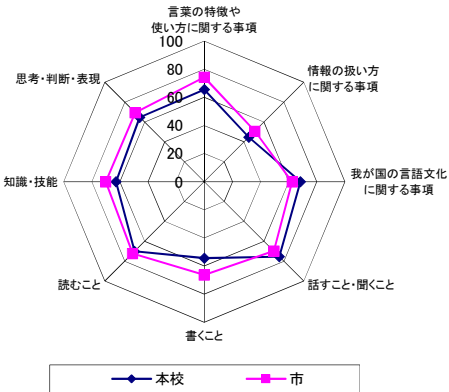


宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	65.6	74.3	74.8
	情報の扱いに関する事項	44.7	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	68.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	75.4	69.9	69.7
	書くこと	54.4	66.4	64.6
	読むこと	70.2	72.3	71.0
観点別	知識・技能	62.8	70.1	70.0
	思考・判断・表現	64.9	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

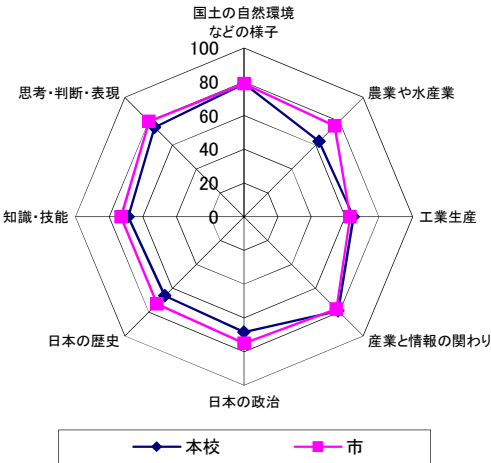
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	●市の平均正答率と比べ8.7ポイント下回っている。 ●漢字の読みに関しては、100%の正答があったが、書きに関しては、どの設問も市の平均正答率を下回っている。 ○言葉の学習では、文脈に沿った漢字を選ぶ設問と、尊敬語の使い方についての設問の正答率が市の平均を約11ポイント上回っている。授業で敬語の使い方について丁寧指導し、全校一斉復習プリントで定着を図った成果である。 ●段落の役割を理解して2段構成で文章を書く記述式の設問の正答率が52.6%と市の平均正答率より16.6ポイント下回っている。また、無記入が15.8%あった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、学年の漢字を繰り返し練習し確実に習得させるとともに、下の学年の漢字についても、自主学習などを利用して復習させていく。 ・言葉の学習については、全校一斉復習プリントを利用し、定着を図っていく。 ・段落の意味を学年の発達段階に応じて丁寧に指導していく。また、記述式の設問に自信がもてない傾向があるので、作文指導の学習時間を増やし、表記上の決まりを身に付けた上で書くことに慣れさせる。
情報の扱い方 に関する事項	●市の平均正答率と比べ6.2ポイント下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、68.4%の正答率で市の平均正答率を6.8ポイント下回った。 ●情報の関係を理解して、目的に応じて文章を書く設問の正答率は、21.1%であり、市の正答率を5.4ポイント下回っている。誤答の多くは解答するために必要な情報を読み取れていなかった。	・文章の中から必要な情報を正しく選択するために、読解力を向上させる。そのために、学年の発達段階ごとに、身に付けるべき「読むこと」の領域のねらいをはっきりさせて指導する。
我が国の言語文化 に関する事項	○市の正答率と比べ、6ポイント上回っている。漢字の由来についての設問で68.4%の正答率であった。授業の中で先人の教えや和歌などを紹介する機会を増やすことで、言語文化に関心をもつことにつながった。	・授業の中で、言語文化に対する関心を高めるような話題を提供したり、自主学習で言語に日本語や日本文化についての見識を高める内容を奨励したりする。
話すこと・聞くこと	○75.4%の正答率で市の平均正答率を5.5ポイント上回っている。学び合いを効果的取り入れ、相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を明らかにして自分の意見を伝える体験を積んできた成果である。 ○互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合う記述式の活用問題では、正答率が42.1%で市の平均正答率を16.7ポイント上回っている。しかし市の平均よりよかったものの誤答が半数を超えており課題が見られる。	・今後も学校課題である「つながりのある授業」の実践を目指していく。学年の発達段階に応じた話し合いの学習形態を取り入れ、主体的対話的な深い学びのある授業を展開していく。
書くこと	●54.4%の正答率で市の平均正答率を12ポイント下回っている。 ●記述式の設問に苦手な傾向が見られる。特にグラフから読み取ったことや読み取ったこと書く活用問題の正答率が市の平均正答率より約20ポイント下回っている。 ●グラフから読み取ったことをもとにして自分の考えを書く活用問題の正答率が市の平均正答率より14.1ポイント下回っている。また、問題の意図が読み取れずに誤答や無記入が見られた。	・学年ごとの「書くこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・読解力を向上させることで、問題に向き合える力を付けさせる。また、語彙を増やすことで表現力を高める。そのために読書指導の充実を図る。また、個別指導に力を入れていく。
読むこと	●70.2%の正答率で市の平均正答率より2.1ポイント下回っている。 ○物語文での登場人物の心情や行動の読み取りは市の平均正答率と比べても十分な達成率であった。授業だけでなく、図書室を利用した読書や地域の方の読み聞かせなどの読書活動を通して、9類を中心とした読書への関心が高まった成果といえる。 ●説明文の読み取りは、市の平均正答率と比べ下回っている。	・学年ごとの「読むこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・読書活動を推進していくことで、読むことへの関心を高める。さらに、読書の幅を広げるようにいろいろな分野の本を紹介していく。 ・読書ノートを作り、内容を要約したり、作者の意図をまとめたりの経験を積ませる。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.9	78.9	75.4
	農業や水産業	63.2	76.1	71.2
	工業生産	64.9	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	78.9	77.6	59.7
	日本の政治	68.4	75.0	79.3
	日本の歴史	66.4	73.1	72.8
観点別	知識・技能	68.7	73.0	71.4
	思考・判断・表現	75.0	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

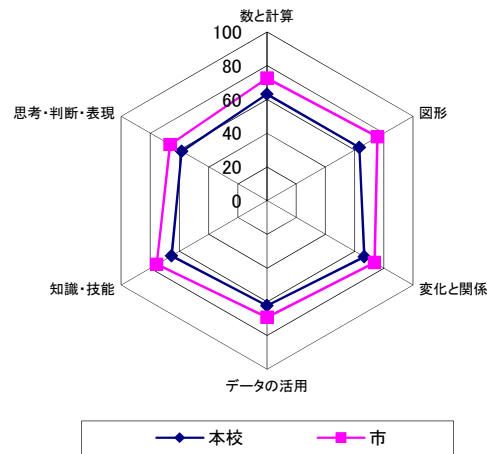
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「中国の国旗と位置についての理解」では、本校の正答率が100%であり、市の正答率を上回った。 ・この領域の正答率は78.9%で市の平均と同じ値であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の自然環境などの様子は、日本の地理的学習や、歴史的学習においてもとても大切な知識となる。国土の位置関係が分かっていないと積み重なっていかない学習もある。そこで、今まで通り、基本的なことを丁寧に積み重ねていきたい。
農業や水産業	●複数の資料に着目して魚の流通にかかる費用について捉え、判断する問題では、市の正答率を下回る結果であった。 ・この領域全体では、市の正答率から10%以上下回る結果であった。	・魚に限らず、流通にかかる費用などは子どもたちにとってイメージして理解することが難しい内容であると思われる。「何のために」「〇〇する費用が必要になる」ことを丁寧に取り上げ、理解させていくことを大切にしていきたい。
工業生産	○日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る問題では、市の正答率を上回る結果だった。 ●自動車工場の作業工程について理解しているかを問う問題では、市の正答率を下回る結果であった。	・資料をもとに問題を考えるやり方は、問題の答え合わせをするときにしっかり振り返っている。今後も資料から分かることは何かしっかり考えさせていきたい。 ・自動車に限らず工業製品だと、作業工程が難しく感じる児童が多いと思われる。一つ一つの工程の説明を丁寧に行う必要があると思う。実際の工場見学ができることが一番いいのだがコロナ禍では難しい。
産業と情報の関わり	○インターネットを利用するときの注意点について理解しているかどうかを問う問題では、市の正答率を上回り94.7%の正答率であった。	・インターネットの注意点については社会の時間に限らず様々なタイミングで指導が入っている。今後も機会をのがさず指導をしていきたい。
日本の政治	○裁判の仕組みについて、資料を読み取る問題では、市の正答率を上回る結果であった。 ●非核三原則について理解しているか問われる問題では、市の正答率を下回る結果であった。	・日本の政治でも資料をもとに問題を考えることはうまくできたと考えられる。これからもよく資料を見ていくことを大事にしていきたい。 ・唯一の被爆国として「非核三原則」についてはしっかりと復習して捉えなおしをさせる。
日本の歴史	○織田信長の勢力拡大について、資料をもとに判断する問題では、市の正答率を上回る結果であった。 ●飛鳥時代の出来事を問う問題や、元寇後の日本について問う問題、そして、江戸時代の主な大名の配置について、資料を読み取る問題では、市の正答率を下回る結果であった。	・この領域でも資料から考える問題は得意な児童が多いと考えられる。しかし、大名の配置についてはその意図を理解している児童が少なかったと思われる。しっかりと復習させていく必要がある。 ・歴史的出来事やその後の人々の生活まで、しっかりと想像させ捉えていくようにさせる必要がある。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.2	72.6	73.1
	図形	63.2	75.7	74.7
	変化と関係	66.7	73.6	66.1
	データの活用	62.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	65.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	58.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

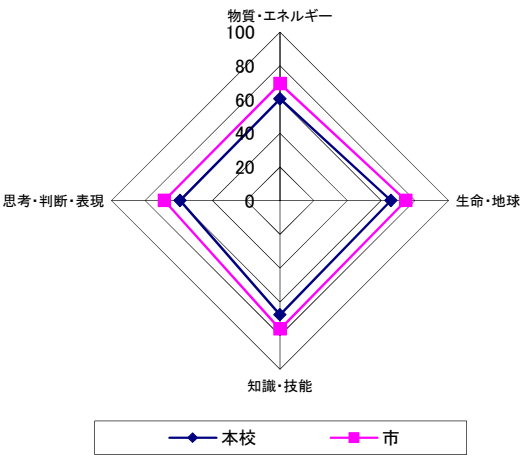
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は63.2%で市の正答率を下回った。 ○分数×分数(約分なし)の計算の正答率は、市の正答率をやや上回っている。 ●1より小さい分数をかける問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことの正答率は、市の正答率を約27ポイント下回っている。また、図を使って分数の乗法の文章問題にあった式を選ぶことの正答率は、市の正答率を約24ポイント下回っている。	・基礎的な計算能力を定着させるために、引き続き全校体制で取組を継続していく。 ・分数の計算に苦手意識をもつ児童が多いため、今後も計算練習を継続するとともに、問題を図に表したり、図から式を立てたりできるよう指導する。
図形	●平均正答率は63.2%で市の正答率を下回った。 ○2つの角が三角形の1つの外角を求めることの正答率は、市の正答率をやや上回っている。 ●高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求めることの正答率は、市の正答率を約26ポイント下回っている。 ●線対称な図形の対応する点を見つけることの正答率は、市の正答率を下回り、31.6%だった。	・展開図と見取図、線対称と点対称の図形の基礎について改めて復習をする。 ・面積を求める公式について改めて復習をする。また、図に数を書き込んだり、色分けをしたりして、図形から必要な辺の長さを見つけられるよう指導する。
変化と関係	●平均正答率は66.7%で市の正答率を下回った。 ○表から面積と人数の割合を考察することの正答率は、市の正答率を約10ポイント上回っている。 ●半分が何%であるかについての正答率は、市の正答率を下回っている。	・速さ、割合の基礎について改めて復習をする。 ・複雑な条件の問題は図や絵を使って整理し、問題を正しく理解できるよう指導する。
データの活用	●平均正答率は62.3%で市の正答率を下回った。 ○円グラフを読み取ることの正答率は、市の正答率をやや上回っている。 ○ドットプロットから最頻値を読み取ることの正答率は、市の正答率をやや上回っている。 ●代表値を用いて説明することの正答率は市の正答率を下回り、10.5%だった。	・理由や考え方を説明することについては、これまでも力を入れて取り組んできたが、苦手意識が強い児童も多い。今後もこの取組を継続し、「思考・判断・表現」の力の育成を図る。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.3	69.3	65.7
	生命・地球	65.8	74.7	77.8
観点別	知識・技能	67.7	76.2	76.4
	思考・判断・表現	59.3	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○物の燃え方では基礎的事項の正答率が市の平均を上回っている。 ●物のとけ方に関しては、特に基礎的事項の定着が不十分な点が見られる。全体に市平均より10ポイント以上下回っている。 ●全体として基礎的事項の正答率が低い。 ●対照実験についての理解が不十分。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的事項の定着に向けて、繰り返し練習を行っていくとともに、文章を読み比べたり、図を見比べて答えを導き出したりするような問題にも取り組ませ発展的な課題も充実させていく。 ・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的な指導を徹底する。
生命・地球	○生物とかんきょうでは、市平均に迫るものや上回っている。 ●月と太陽に関しては、全体に市平均を10ポイント以上下回る。太陽、月、地球の基本的な関係理解に不十分な点が見られる。	・生物に関しては下学年からの体験を通しての活動の成果が出ているので継続していく。 ・壮大で捉えにくいものは視聴覚教材を有効活用するとともに、実生活の中で見られる事象を提示したり、身近なものに置き換えたりして理解の定着を図る。

宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習指導の充実と支援の工夫 ・だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業の実践	○宇都宮モデルを意識した授業により基礎・基本の定着を図る。 ・考えさせ、気づかせ、習得させる ・習得したことを活用させる問い ・探究心を刺激する課題の設定 ○クロームブックを効果的に活用する。 ○他教科等との関連を図った授業を行う。(←学習内容の「つながり」に気付かせる授業実践の積み上げ) ○授業研究会において効果的な指導について検討する。	・「勉強が好きですか。」の肯定回答率は、100%から57.9%であった。学年が進むにつれ、学習に対する苦手意識が高まる傾向がある。 ・「勉強がどの程度わかるか。」の肯定回答率は81%から94.7%であった。肯定回答率は学年が上がるにつれて高まっている。肯定回答率の内訳をみると、3、4年生はよくわかるの割合が高いが、5、6年生はだいたいわかるの割合が高い。 ・「進んで学習しているか。」の肯定回答率は100%から78.9%であった。学年が進むにつれ肯定回答率が下がる傾向がある。 ・「学習をしてわかるようになったり、できるようになったりすることがうれしい。」の肯定回答率はすべての学年が90%を超えており、100%の学年が3学年あった。また肯定率の内訳も、すべての学年でとてもあてはまると答えている。 ・「グループなどでの話合いに進んで参加している。」の肯定回答率は100%から77.8%であった。内訳も6年生以外とてもあてはまると答えていた。 ・「国語がすき。」の肯定回答率は56.9%であった。学年が進むにつれ、苦手意識が高まる傾向がある。 ・「算数がすき。」の肯定回答率は76.1%であった。国語に比べて若干肯定率が高い。 ・パソコンについての設問(3年以上)に関してはどの学年もほとんどの設問で市の平均正答率を超えている。 ・学力調査の結果から、市の平均と比べて国語は5.4ポイント低い。社会は4.3ポイント低い。算数は9.5ポイント低い。理科は9ポイント低い。しかし、算数以外は前年度の平均正答率と比べて上がっている。基礎問題と活用問題で比べてみると、すべての教科で基礎問題のほうが活用問題に比べ、市の平均との差が大きい。 ・家庭学習の時間(平日)で市の推奨学習時間に満たない割合は、1年5%、2年50%、3年0%(30分未満)4年31.4%(1時間未満)5年50%、6年47.4%

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の定着の工夫とそれを活用し課題解決に取り組む思考・判断・表現力の育成
- ①課題解決に対して自信や探求心をもって取り組み、学びを深めるための指導
- ②だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業の実践
- ③家庭学習の充実に向けた保護者との連携強化